

# 韮崎市立病院 クリニカルラダー

定義	レベル	I	II	III	IV	V	
	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する 部署の特殊性を理解しメンバーとしての役割を遂行できる	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する 部署で多い基礎疾患に対し看護展開ができる	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する 部署における役割行動が行える	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		【実践目標】	□助言を受けながら情報収集が出来る(看護プロフィールに必要な情報を入力できる) □個人情報の取り扱いの重要性を理解できる □患者・家族のニーズを理解し助言を得ながら看護計画が立案できる □生命の危険な状況を把握でき、報告できる □部署特殊の基礎疾患を理解できる □患者・家族とのコミュニケーションがとれる	□必要な情報収集が出来る(看護プロフィールの追加・修正が出来る) □全体像から個別性のある看護計画が立案できる(追加・修正が出来る) □危機的状況を把握出来る □部署特殊の基礎疾患を理解できケアに繋げる	□病状を理解した上で身体的・精神的・社会的側面から情報収集できアセスメントすることが出来る □ケアに対し創意工夫を行い最良なケアができる □ケアの統一を図るため情報の共有ができる	□患者の背景や経過や治療、ケアを予測し退院後の生活を見極め必要な情報収集が出来る(退院スクリーニング評価を踏まえ退院後の生活に対しての必要なアプローチ方法を考えるための情報収集が出来る) □来院していない家族へもアプローチし必要な情報収集を行う(患者の不安や希望を知り家族の思いも考慮する為の情報収集が出来る) □意図的に収集した情報を統合し、患者・家族、今後のニーズを捉えることができる	□複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □患者や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる □診療報酬や社会制度、地域における役割を理解でき患者・家族のニーズを捉えることができる □対応困難な症例(トラブル・アクシデント後等)において必要な対応の中で患者・家族のニーズを的確に捉えることが出来る
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択し応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の潜在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
		【実践目標】	□指導を受けながら看護マニュアルに沿って看護ケアが実践できる □安全に基本的看護技術が実践できる □手順を熟知しケアが出来る □患者への説明が出来ケアが出来る □緊急時、指示を受けながら行動できる	□標準看護計画に基づき看護ケアを実践でき、評価・修正ができる □病状をしっかり把握し安全に自立した看護ケアが実践できる □治療方針を理解し患者・家族への説明を行い看護ケアが実践できる □急変時サポートされたケアを責任を持って実践できる	□症状に合わせた看護ケアができる □各ケアに対し創意工夫を行い最良なケアができる □ケアの統一を図るため情報の共有ができる	□患者の背景を情報収集でき理解したうえで予測した看護計画の立案が出来る □必要と判断した情報を収集しチームメンバーと共有することで統一した看護ケアが提供できるよう働きかける □急変時、管理者への連絡を行い応援を受けながら対応できる(家族への対応も出来る)	□ケアな困難な状況においてもリソース(多職種、公的機関等)を活用しケアが出来る(退院困難例に対し家族や地域サービスの準備を整え退院調整ができる) □倫理的課題に対し最善なケアを選択し実践することが出来る □対応困難な症例(トラブル・アクシデント後等)において法的・病院のルールに則り患者・家族へ対応が出来る
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要な判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		【実践目標】	□助言を受けながらチームの一員としての役割を理解出来る □連絡・報告・相談が出来る □多職種の役割を理解する □カンファレンスに参加し発言でき情報を共有できる	□患者の家族背景を把握し必要な情報交換が出来る □キーパーソンとの情報交換が出来る □必要時、多職種の協力の必要性に気付く □カンファレンスに参加し積極的に発言することで患者の思いや希望を関係者と情報共有が出来る	□カンファレンスを開催し患者の状況を提供できる □看護ケアに対しコメディカルと意見交換が出来る □患者の個別的なニーズに対応するために、その関係者、他職種へ挙力を求めることができる	□患者と家族が必要としている情報やケアを多職種と協力し行う □院内の多職種連携・協働の中でリーダーシップを発揮し連絡・調整を行える □患者ケアに必要な関係者(院外・業者や行政関係者も含む)へ連絡・調整が出来る	□複雑な状況の中で自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかける事ができる □多職種連携が十分に機能するよう、調整的役割を担うことができる □多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
【行動目標】		□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる □患者・家族へ寄り添うことができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	
【実践目標】		□治療の必要性を理解でき患者や家族へ説明が出来る □患者や家族の意思を報告できる □入院・退院時カンファレンスに参加できる	□患者や家族の意思が理解でき必要なIC設定が出来る □退院に向けての在宅介護への助言が出来る □患者・家族の希望の背景や理由について確認することが出来る	□意思決定に必要な情報提供ができる □患者や家族へ寄り添い思いを理解できる □患者や家族の思いを多職種へ代弁できる	□患者と家族の価値観、生き方、意向を確認し、複雑な思い(揺らぎや迷い)や感情の表出を促すことができる □患者と家族間の意向が異なる場合や医療スタッフとの意向の違いがある場合は積極的にカンファレンスを開催し調整が出来る	□適切な資源を活用し患者や周囲の人の意思決定プロセスを支援できる □意思決定プロセスの中で、看護者としての意見や情報提供をすることができる □患者および家族が導き出した事項を尊重し、部署として意思決定を支えるケアを提供することができる	
組織的役割遂行能力	【レベル毎の目標】	公務員・病院職員の一人としての心構えや自覚をもつ 各部署の専門性の学習を行う	日勤のリーダー、新卒者の指導者としての心構えができる	指導者としての役割がとれ、また指導者を支援することができる チーム医療を推進するためのリーダーシップが発揮できる	看護実践の責任者として役割モデルがとれる	組織目標を達成するための目標管理ができ豊かな職場風土を作ることができる	
	【行動目標】	□地域の特性を理解し、専門職として社会貢献ができる □豊かな人間性と社会性、高い倫理観をもち、勤務時間内外に関わらず、法令や勤務規程、社会的規範を遵守した行動をとる □各種マニュアルについて知ることができる □必要度研修への参加 □倫理報告書を書くことができる □インシデントレポートの記載方法がわかる □スタンダードプリコーションについて理解し、実施できる	□リーダーやプリセプターについて理解できる □日勤リーダーができる □倫理観を高めるための行動がとれる □危険予測能力を高める行動がとれる	□新卒者教育研修の講師ができる □チームに新人教育の状況が報告でき支援を促せる □チームリーダーができる □責任をもって、委員会活動ができる □指導者としての役割がとれ、支援することができる □後輩を育成するための教育的配慮ができる	□看護実践の中で幅広い知識をもって、問題解決に向けてチームを導ける	□個人面談を実施し、個人目標達成に向けて支援できる □病棟運営ができる	
	【実践目標】	□病院理念・方針を理解する □看護局の理念・方針を理解し看護局目標を遂行する □倫理的配慮が出来る □インシデントが報告できる □感染への危機感を持ち実践できる	□院内外の研修を受け、リーダーやプリセプターについて理解できる □指導を受けながら日勤リーダーができる □倫理観を高めるため積極的に研修へ参加し報告書を作成できる □部署での担当や係りを遂行できる □コスト削減への取り組みができる	□新人教育へ参加する □委員会活動や所属におけるグループ活動参加する □担当となった役割を遂行する(委員会・ワーキング・白百合会など) □コスト削減への取り組みやメンバーへの声かけができる	□部署の課題解決に向けた目標の設定、計画、実施、評価ができる □部署における物品の管理、療養環境の整備の現状を把握し、問題点を見出し、管理者とともに改善できる □部署の業務の現状を把握し、問題点を見出し、管理者とともに改善できる □優先順位を考え、決められた時間の中で業務を進めることができるモデルとしての行動ができる	□病院・看護部の課題解決に向けた部署目標の設定、計画、実施、評価ができる □看護の質向上に向けた、院内の組織横断的活動ができる □スタッフの教育的課題やキャリアアップをふまえた、支援ができる □労務基準・就業規則を理解し、労務管理ができる	
自己教育・研究能力	【レベル毎の目標】	日々の業務の中での疑問点などを、自主的に調べ学習できる	自己課題を意識し自己開発へ取り組む	看護研究を通して看護実践を深めることができる	専門分野へチャレンジする	看護管理に必要な知識を得ることができる	
	【行動目標】	□新人研修に参加できる □わからないことは、スタッフに聞いたり自己学習したり、解決に向けた行動がとれる □フィジカルアセスメントを学習する	□教育委員会主催の事例報告準備研修に参加できる □卒業2年目に事例を通して、自己の看護を振り返り、発表できる □自己目標への取り組みを明確化し取り組むことができる	□看護研究へむけての研修に参加できる □院内で看護研究が発表できる	□キャリアアップについて自身で考えることができる	□院内外の研修などに積極的に参加し、看護管理に必要な知識や技術を得ることができる	
	【実践目標】	□教育委員会主催の新人研修に参加する □院外研修へ積極的に参加する □ME機器を理解し習得できる □部署における基礎疾患の学習し実践へ繋げる	□事例報告(卒業2年目)に取り組み発表できる □院内外の研修に積極的に参加する □部署で多い基礎疾患について自己学習する	□院内看護研究に取り組むことができ、発表できる □看護研究において、共同研究者として積極的に関わることができる □院内外の研修や学会に積極的に参加する	□看護の専門性や役割課題の達成に向けた研修に参加できる □看護研究に自主的に取り組むことができる	□看護の専門性や役割課題の達成に向けた、長期研修に自ら参加できる □積極的に院外看護研究発表ができる	